

1 学校の概要（15年4月現在）

東海市立渡内小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	20
児童数	58	63	69	54	63	62	5	374	

2 21世紀の社会に大人になって生きていくために、英語は必ず必要になる。しかし、英語学習を取り入れていない今の小学校教育では、国際社会で生きていくために必要な学力を身につけることはできない。また、国際理解力を身につけるために必要な日本文化についての理解も今一步深まりにかける。

3年から6年では総合的な学習の中に英語を取り入れた。1年と2年では学校裁量の中で英語を学習することによって、全学年で英語学習を実施することが出来た。また、日本文化体験活動を取り入れることによって日本の伝統文化に対する理解を深め、さらに、外国に対する理解を深めることができる。

3 研究のねらい

総合的な学習として英語学習をとらえるために、単なる1教科としての英語科ではなく、コミュニケーションの手段として英語を学習に取り入れる。

- (1) ALTを通して、ものおじせずに、簡単な英語でコミュニケーションができるようになる。
- (2) 英語や外国のことを知り、日本のよさを感じ、日本や外国に興味・関心をもてるようにする。
- (3) 外国の人も自分たちと共通するものをたくさんもっていることに気づく。
- (4) 人と関わりコミュニケーションをすることの楽しさを味わわせる。
- (5) 自分なりの目標をもって自ら学ぼうとする意欲を高める。

4 「総合的な学習の時間」の取り組みの内容

- (1) 年間20時間の英語活動と、10～15時間の日本文化体験活動
- (2) 年間35時間の市共通の「水と命」の総合学習と、35時間の本校独自の総合学習

5 研究の方法

- (2) 指導力を高めるための英語授業研究
- (4) 英語活動のための環境や雰囲気づくり及び、教材・教具の作製
- (6) 全学級での研究授業（英語と日本文化活動を中心に） 全学級ではやれなかった。
- (7) 本校独自の総合の計画作り。35時間を10時間に変更して作成。（削減された25時間は、英語活動と日本文化体験活動の時間になる。）

6 成果と課題

(1) 成果

- ALTの先生と親しくなり、外国人にもものおじしない児童がたくさんいる。
- 英語が少しずつ身に付き、英語で話したいという児童が増えている。
- 歌やゲーム・チャンツをメインにした英語活動の時間を楽しみにしている児童が多い。
- 教師も少しずつ英語活動に対する考えが変わってきている。

(2) 課題

- 英語学習初年度のため、高学年の児童にとってカリの内容が、難しすぎる。
- 2週間に1度の英語活動の時間だけではとても定着しないので、朝の会・音楽の時間・学級活動などの時間を利用して、英語に親しませていく。
- 教師が英語を積極的に学び、日本語禁止の英語活動にチャレンジする。

総合的な学習の時間全体計画

東海市立渡内小学校

- ・児童の実態
- ・教師の願い
- ・父母の願い
- ・地域社会の実態

本校の教育目標

校訓 広い知識 豊かな心 強い体

- ・広い知識と自主的な判断力をもつ児童の育成
- ・礼儀正しく協調性があり、心優しい児童の育成
- ・心身とも健康で自ら厳しく律する児童の育成

- 関係諸法規
- ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・学習指導要領
 - ・東海市市民憲章
 - ・東海市生涯学習目標

特別活動

【学級活動】
児童一人一人が学級の一人としての自覚をもち、望ましい集団生活や人間関係を築こうとする気持ちを育てる。(かかわる)

【児童会活動】
全校児童が互いを認め合い協力し合って、学校生活上の問題を解決しようとする態度を育てる。(見つめ合う)

【学校行事】
集団への所属意識や連帯感をもち、集団の中で互いに支え合い、高め合おうとする態度を育てる。(高め合う)

めざす子ども像

- ・自らの課題を見つけ、学び続ける子ども(学)
「今なぜこれを学ぶのか」「学んだことを今後どう生かしていくのか」など、学習することの意味・意義を理解し、課題達成をめざし、意欲的に学び続けようとする。
- ・自分なりの考え・意見をもつ子ども(思)
問題や課題にしっかりと目を向け、多くの仲間と解決しようとする中で、ものの見方・考え方を創り上げようとするとともに、自他のよさに気づくことができる。
- ・進んでコミュニケーションしようとする子ども(行)
自分に自信をもち、進んで他者や対象とかかわりをもつ中で、他者や自分自身とのかかわりを深め、共に成長していこうとする。

各教科の目標	
国語	・目的や場に応じて適切に話し、話の中心や話し手の意図を聞き取る能力を育てる。
社会	・観察・見学・調査等の具体的な活動を通して、情報を収集・選択・活用できる能力を育てる。 ・公民的資質の基礎を養い、社会の変化に対応できる能力を育てる。
算数	・学習の面白さや楽しさを味わう中で、自分なりのやり方で論理的に解決する力を育てる。
理科	・科学的な考えをもち、適切に説明できる能力を育てる。 ・自然のしくみを知り、自然を大切に思う気持ちを育てる。
生活	・身近な自然や社会とのかかわりに関心をもち、自分の生活について考える態度を育てる。
音楽	・表現及び鑑賞の活動を通して、一人一人の音楽性と豊かな心情を養い、主体的に音楽を楽しむ態度を育てる。
図画工作	・自然や生命への感動や生活から生まれた心情を素直に表現する態度を育てる。 ・人が表現したものを大切にし、その思いを感じる取り、理解しようとする態度を育てる。
家庭	・家族の一員としての自覚をもって、主体的に家庭生活を向上させようとする実践的な態度を育てる。
保健体育	・自他の健康安全に留意し、強い意志と身体を築こうとする態度を育てる

道徳

- ・基本的な生活習慣や基本的行動様式の徹底を図り、実践できるようにする。
- ・自他の健康について意識を高め、命を大切にしようとする態度を養う。
- ・人の気持ちを理解し、集団の一員として思いやりの心をもって行動できるようにする。

総合学習の目標

- ・豊かな体験を通して、もの・人・ことと意欲的にかかわろうとする気持ちを育てる。
- ・自分の課題を見つけ、自分に合った学習方法を確立し、主体的に解決していこうとする態度と統合的な力を育てる。
- ・自他のよさを認め合い、共に成長していこうとする豊かな心を育てる。

生徒指導

- ・児童相互、児童と教師の心の交流を深める。
- ・常に温かい人間関係を築こうとする豊かな心を育てる。
- ・他とのかかわりの中で、他とのよさを認め、自己求めようとする児童を育てる。

総合学習の指導方針

- ・自らの課題をしっかりともち、解決に向けて主体的・意欲的に行動することができるよう支援する
- ・豊かな心を育て、生きる力をはぐくむために、体験や問題解決を重視した活動に取り組む。
- ・学習の場に地域の人を活用することを通して、地域の一員としての自覚をもたせ、地域や地域の人を大切に思う気持ちを育てる。
- ・活動の中で見られる児童の成長を形成的に評価し、評価したことを次の活動での指導・支援に生かす

各学年の目標

【1年生】 友達と仲良く遊ぼうとする気持ちを育てる。	【2年生】 相手の気持ちを考え行動しようとする優しい思いやりの気持ちを育てる	【3年生】 きまりを守り、自分できちんとできるまでやり通す態度を育てる。
【4年生】 友達のよさを認め、互いに協力し合おうとする態度を育てる。	【5年生】 自分の身のまわりを振り返り、工夫して生活しようとする態度を育てる	【6年生】 広い視野をもち、常に自他の向上に努めようとする態度を育てる。

学校環境

- ・多目的ルームや学習室を活用し、自主的・意欲的な活動ができる学習環境の整備を図る。
- ・児童・教師・保護者が協力し合って、安全で、緑と花に包まれた学校づくりに努める。

家庭及び地域社会との連携

コミュニティや地域ボランティアなどとの協力関係を強化し、地域の教育力に支えられた「開かれた学校」づくりを進める。